

2002年度明倫短期大学研究会抄録

第81回：2002年10月10日（木）

本学における研究のありかた ～明倫短期大学学会創設にあたって～

福島 祥紘（教授，歯科衛生士学科）

本学の両学科（歯科衛生士学科，歯科技工士学科）における研究体制は，大学創設とともに始まり，いまだ発展途上段階にある。本研究会も今回で81回を数え，いよいよ学会設立も真近となってきたが，研究会が何故大切か，研究の進め方，研究グループの必要性について，総括しておく必要がある。ことに，歯科衛生士，歯科技工士の方々が教育の他に研究することの重要性は，本学だけではなく，本邦におけるそれぞれの分野の将来構想の上からも益々要求度が高まることだろう。本学における研究のあり方について，具体的に述べた。

明倫短期大学附属歯科診療所の 診療機器搬送システムについて

池田 紘子（歯科衛生士，附属歯科診療所）

当診療所では，外来に通院できない患者さんに対応するため，歯科訪問診療を行っている。訪問診療先で，より多くの患者さんに，より良い診療を提供できるように診療機器（タービン，エンジン，3 wayシリンジ・パキューム，診療室で使用しているアシスターとほぼ同じ状態の棚が装備），起き上がり小椅子（背板の角度を変えることが可能）を開発し，患者さんの居室を，瞬時に診療室にすることが可能になった。今回は，この機器搬送システムについて発表した。

第82回：2002年11月14日（木）

有病者の歯科治療について

米山 竜也，新家 由香，伊庭 祐一郎，
佐々木 加津之，市川 伸彦
（歯科医師，附属歯科診療所）

近年高齢化が進む中，歯科治療を要する患者にも高齢者が増加している。高齢者は有病率が高く，複数の基礎疾患を持つことも多い。歯科治療は外科的処置が多く，患者に対する身体的，精神的ストレスも多い。そのために，基礎疾患の把握，歯科治療時の配慮を十分に行い基礎疾患の増悪，偶発症の予防に対する注意がきわめて重要である。今回は臨床で遭遇する頻度の高い疾患について，事故防止と緊急対応の観点から考

察した。

アルジネート積層2回印象法が 模型の形状に及ぼす影響 第1報 2次印象材の混水比が 形状変化に及ぼす影響

中澤 孝敏（講師，歯科技工士学科）

近年，アルジネート印象材用接着材の開発があつて1回目の印象を個人トレーとしてその上に同じアルジネート印象材を積層して印象する，いわゆる2回印象法が考案され，多くの臨床医によってその術式と利点が紹介されている。そこで，2次印象用アルジネート印象材の混水比が模型の形状変化に及ぼす影響を接触型3次元スキャナーを用いて測定し，最も再現性に優れた混水比について検討を加えた。その結果，印象時の操作性ならびに口蓋形態の再現性からみてアルジネート積層2回印象法の2次印象材の混水比は標準混水比の20%増が最も良いことがわかったので報告した。

第83回：2002年11月27日（水）

青年期の精神的問題と対応について

三浦 まゆみ（三浦クリニック神経科）

学生相談室と共催講演会。＜心の健康＞の5つの指標に従って，人生を8段階にわけそれぞれの時期の精神的特徴を述べた後，青年期（12～20歳）の精神症状を三浦クリニックの患者数と比較しながら列挙した。＜うつ病＞，＜摂食障害＞，＜神経症＞，＜人格障害＞，＜ひきこもり＞，＜対人恐怖症＞，＜無気力＞，＜拒食症＞などの症状とその対応方法について述べ，相談者に求められることは，①青年が自己決定することを助ける，②青年の怒りや不安の言葉に共感する，③青年とともに考える，④秘密を保持して信頼関係をつくる，ことであると結論した。

（文責，福島）